

令和5年3月16日

金井中だより

第11号

校長 仙北屋正樹

卒業おめでとうの言い方

英語

Congratulations on your graduation
(コングラチュレーションズ オン ユア グラデュエーション)

スペイン語

Felicitaciones en tu graduacion
(フェリシタシオネス イン ツー グラデュエーション)

明日は卒業式。新しい世界への旅立ちです！

いよいよ明日、3月17日は卒業式です。3年生のみなさんにとって、この3年間の中学校生活はどんなものだったのでしょうか。思い返せば、小学校時代から始まったコロナによる生活制限に振り回されてきた月日だったと思います。中学校生活のスタートの入学式が終わった後、次の日から学校に通えずリモートでの学校生活でした。やっと6月から登校しての学校生活が始まりましたが、体育祭、合唱コンクール、校外学習、英語国内留学など、様々な行事に対してコロナ感染症対策をとらなければならず、その多くの影響を、3年生が受けてしまいました。部活動の活動制限もありましたよね。たくさんの方の大会も中止になってしまいました。この3年間で開催された東京オリンピック。実はコロナが流行っていなければ、味の素スタジアムにみんなが観戦するはずだったんですよ。いろいろな行事ができなかった中で、唯一制限もなく行えたのが修学旅行でした。「これだけは行かせてあげた」という気持ちで、先生たちは祈るような気持ちで準備をしていました。2泊3日の修学旅行から戻ってきたみなさんの笑顔、3年生の先生たちの満足した笑顔を見て、心から「よかったな」と思いました。



さあ、いろいろな思い出ができた中学校生活も、明日が最後です。コロナ感染症による制限はまだ続いていると思いますが、明日の卒業式はみなさんにとって思い出に残る式にしたいと思います。そして、勇気を持って新しい世界へ挑戦して下さい。

3年生が認知症について考えました。

授業中に、よく地域の防災無線が聞こえてくることがあります。その多くが「お年寄りを探しています。心当たりの方はお連絡下さい。」という内容です。きっと自分の家がわからなくなってしまうのだと思います。誰でも年はとります。それとともに記憶が薄れてきてしまいます。これは仕方ないことだということはおかしくも思いません。でも、そのスピードや忘れる内容が少し違うご老人の方々がいます。きっとそれは「認知症」という病気にかかっていると考えられます。多くの方がなる可能性があるこのことについて、3年生は今回学習することにしました。



当日は、町田市鶴川第一高齢者支援センターのみなさんと、認知症のご老人にも来ていただき、どのような病気で、どのような援助をしてあげたらいいかを教えていただきました。「認知症」は、加齢によって脳細胞が健康でなくなることで、脳に異常物質が10年から20年かけてたまることから始まるそうです。症状は物忘れがひどくなることです。でも、誰もが物忘れをしますよね。若いみなさんだって物忘れはします。でも、その内容が違うそうです。例えば「会議の日時を忘れていたが、言われて思い出した」これは、誰もがわかるうっかりミスです。でも「会議の予定があったこと自体を忘れてしまう。まったく覚えられない」このようなことになると認知症の可能性が高くなるわけです。認知症の人は、「自分はなぜ覚えられなくなってしまったんだ」と不安になってしまうそうです。「自分は、このままどうなってしまうのだろう」「自分がおかしいことをみんな知ってしまったのかもしれない」という気持ちがどんどん膨らみます。忘れ

ることを指摘されると、自分がばかにされたと思い、怒りっぽくなり、時には暴力をふるってしまふこともあるそうです。では、わたしたちはどうしたらいいのでしょうか。高齢者支援センターの方は、「忘れてしまったことを強く指摘しないで励まします。そしてその人が得意なこと褒めてあげるようにすると、気持ちが穏やかになります」とおっしゃっていました。私たちも失敗したことを強くしてされたり、怒られたりすれば腹が立ちます。それと同じです。それよりも「次がんばりましょう」と言われたほうが気持ちになります。誰もが年を取り、忘れっぽくなるのです。講座を受けた後、生徒のみなさんには、「私は認知症サポーターです。」という講座修了証が配布されました。その裏には、次のようなことが書かれていました。

(認知症の人への対応の心得)

1. 驚かせない。 2. 急がせない 3. 自尊心を傷つけない

(具体的な対応の7つのポイント)

①まずは見守る。②余裕をもって対応する。③声をかける時は一人で

④後ろから声をかけない。⑤やさしい口調で。⑥おだやかにはっきりした話し方で。

⑦相手の言葉に耳を傾けて、ゆっくり対応する。

☆みなさんも道に迷っている高齢者の方がいたら、上に書かれていることに気をつけながら声をかけて下さい。

3年生が命の授業を受けました。

3月9日(木)に、3年生は命の授業を受けました。これは、命に寄り添う助産師さんから、「命の奇跡」についてはなしてもらい、自分や周りの人の命について、その大切さを知ってもらおうと企画されたものです。当日は、5名の助産師さんをお迎えし、お話を伺いました。私たちは、赤ちゃんが生まれてくることは、ごく普通のことだと考えていますが、助産師の野口さんのお話を聞くと、それは大きな間違いであることに気付かされます。その内容は、赤ちゃん誕生のための受精が、いつも簡単にいくわけではないこと、そのタイミングもかなり難しいこと、また、お母さんに守っていかなければならないこと、生まれてくる時大変であることなど、数え切れないことがうまくいって赤ちゃんが誕生しているのだというお話でした。具体的な言葉でいえば、早く生まれてきてしまえば未熟児なので命が危険にさらされるわけですね。実際に、3年生の中には、「自分は未熟児でした」という人もいました。でも、その身体は立派でしたよ。奇跡が生んだ身体だということなのです。その後、赤ちゃんと同じ重さのリュックをしょって、妊婦さんの苦勞を体験する妊婦体験、お腹の中にいる赤ちゃんの心音を聞く体験、実際に赤ちゃんを抱いてみる抱っこ体験など、また動画などを見せていただき、受精から妊娠までの過程を勉強しました。赤ちゃんの心音を聞く場面では、家庭科の上村先生にご協力いただき(上村先生のお腹には赤ちゃんがいます。みなさん気をつけてあげて下さい。)、赤ちゃんの心音を聞かせてもらいました。赤ちゃんの抱っこ体験では、齋藤先生の赤ちゃんと助産師さんの赤ちゃんを、実際に抱っこしてみる体験をさせてもらいました。みんなおっかなびっくりで、大事に抱っこしてくれたおかげで、赤ちゃんはまったく泣きませんでした。抱っこした生徒のみなさんは、最初はこわごわでしたが、慣れるとみんなにこにこ顔で、まるでお母さん、お父さんの表情でした。妊婦体験では、重いリュック背負って、赤ちゃんの重さを感じてもらい、それをいつも背負っている大変さを実感してもらいました。お母さんは本当に大変です。学校だけではできない素晴らしい体験をすることができました。



んのお腹にいるときも大変であることなど、数え切れないお話でした。具体的な言葉でいえば、早く生まれてきてしまえば未熟児なので命が危険にさらされるわけですね。実際に、3年生の中には、「自分は未熟児でした」という人もいました。でも、その身体は立派でしたよ。奇跡が生んだ身体だということなのです。その後、赤ちゃんと同じ重さのリュックをしょって、妊婦さんの苦勞を体験する妊婦体験、お腹の中にいる赤ちゃんの心音を聞く体験、実際に赤ちゃんを抱いてみる抱っこ体験など、また動画などを見せていただき、受精から妊娠までの過程を勉強しました。赤ちゃんの心音を聞く場面では、家庭科の上村先生にご協力いただき(上村先生のお腹には赤ちゃんがいます。みなさん気をつけてあげて下さい。)、赤ちゃんの心音を聞かせてもらいました。赤ちゃんの抱っこ体験では、齋藤先生の赤ちゃんと助産師さんの赤ちゃんを、実際に抱っこしてみる体験をさせてもらいました。みんなおっかなびっくりで、大事に抱っこしてくれたおかげで、赤ちゃんはまったく泣きませんでした。抱っこした生徒のみなさんは、最初はこわごわでしたが、慣れるとみんなにこにこ顔で、まるでお母さん、お父さんの表情でした。妊婦体験では、重いリュック背負って、赤ちゃんの重さを感じてもらい、それをいつも背負っている大変さを実感してもらいました。お母さんは本当に大変です。学校だけではできない素晴らしい体験をすることができました。

今月の表彰

都立学校美術展出品者

☆家庭科(ブックカバー)

O・K(1年)、H・S(1年)、T・D(1年)、N・Y(1年)

☆技術(鋳造品)

K・R(3年)、K・R(3年)

☆美術(手の構成デザイン)

K・T(3年)、M・A(3年)

体育優良生徒表彰

K・T(3年)、S・K(3年)